



←大崎電気工業のハンドボール教室。参加者みんなで集合写真を撮りました。講師には元オリンピック選手もいました。子どもたちにとって貴重な経験となりました。



5



3



4



6



7

①・⑥・⑦木村屋總本店での工場見学の様子。いつも食べているパンがどのように作られるか初めて知ることばかり。②淑徳大学のキャンパスの講堂。普通通う学校の机と椅子とは全然違います。③3日目のカラーセラピー。自分たちの心はどんな色をしているかみんなと一緒に学びました。④オリジナルパンの発表。人前で発表する経験にもなりました。⑤初日に行われたレク・ゲーム。みんなでWAになりました。



三芳町がキャンパス！ 子ども大学みよし・レポート報告

町内の小学4年生から6年生までの児童が本物の大学キャンパスで学ぶ“子ども大学みよし”。昨年初めて開校したこの学校の様子をお届けします。

平成25年度は埼玉県内で子ども大学みよしを含め26校、子ども大学があります。各地域の特色を活かした大学となっていて、学校とは一味違う体験ができます。



教育だより
問い合わせ
生涯学習課生涯学習係 (内線 514・515)



2

子ども大学みよし開校

淑徳大学をはじめ、地域の諸団体が連携し、学校とは一味違った子どもたちの知的好奇心を刺激する講義を展開する「子ども大学」。三芳町では昨年、初めて開校しました。

子ども大学とは

子ども大学とは、小学4年生から6年生までのいろいろな学校・学年の子どもたちが、本物の大学のキャンパスで学ぶ子どもたちのための大学です。学校とは一味違ったテーマを、大学教授などの専門家がわかりやすく教えてくれます。地域の大学や市町村、企業・NPO、県が連携して、子どもの知的好奇心を刺激する学びの機会を提供します。

地域が一体となって協力

(1日目) 淑徳大学埼玉キャンパスで入学式と参加者と打ち解けあうためにレク・ゲームが行われ、友達とWAを作りました。
(2日目) 地元企業の大崎電気工業の協力でハンドボール教室が行われました。体を動かしながら、ハンドボールとスポーツの楽しさを学びました。
(3日目) 藤久保のぎずなステーションで「心の色ってどんな色」と題してコミュニケーションカラーセラピーが行われ、

心理状態によって日々、色の見え方が変わることを学びました。

(4日目) 木村屋總本店三芳工場で見学。パンを作る工程を実際に目で見て体験。子どもたちによるオリジナルパンの提案も行われ、社員にプレゼンテーションをしました。

(5日目) 修了式。淑徳大学埼玉キャンパスで新井保幸学長(淑徳大学教育学部長)から修了書をひとりずつ受け取りました。

このように三芳町の大学や企業、NPO法人など多くの人の協力があり、開校された子ども大学みよし。今回、子どもたちは学校では学べない多くの貴重な経験をすることができました。

私たち自身もいろんなことを学ぶことができました。子どもならではの発想に驚きの連続で、貴重な体験となりました!



→大学生ボランティアとして協力した淑徳大学生の7人。皆さんは将来小学校の先生をめざしています。

LECTURER'S VOICE 子ども大学を終えて



実行委員長
淑徳大学
岩村 沢也 教授
経営学部・観光経営学科、国際コミュニケーション学部・人間環境学科の教授。子ども大学みよしの実行委員も務める。

子どもだけではなく大人もWINWINの関係に

地元企業と連動することで子どもたちだけではなく、大人も企業とのネットワークができます。例えば木村屋工場見学。食べたいパンを子どもが考え企業にアイデアを提供、子どもたちや保護者に木村屋という企業を知ってもらう。行政・大学・企業・市民社会などが結びつき、お互いにメリットを見出し、いくことでWINWINの関係になっていきます。今回を出発点として今後どうつなげていくかが次回以降の課題ではないでしょうか。
※ WINWIN…関係する両者ともにメリットがあること。

参加した子どもたちの声



1班リーダー
佐久間 優一さん

大人と一緒に楽しい勉強ができました。将来に役立ついい大学でした!



2班リーダー
柿沼 伶さん

パンの工場見学が一番楽しかったです。友達がたくさんできました!



3班リーダー
渡辺 晴夏さん

違う学校や学年の違う友達がたくさんできてよかったです!



4班リーダー
鈴木 茂美さん

みんなで協力したハンドボール、パンを考えのが楽しかった!



5班リーダー
森田 千咲さん

初めてリーダーになったことが自信になりました。楽しい体験でした!